

「チャレンジ・ネットワーク」の構築について (全体の論点メモ)

現状

- ・ 日本の女性は国際的にみても、持てる能力に比べ活躍度が低い
- ・ チャレンジしたいときに、たくさんの窓口があって、どこから始めればよいか、どこに相談に行けばいいかわからない
- ・ 再就職・起業等就業支援、NPO・ボランティア活動支援、生涯学習、II講習等のチャレンジ関連情報を提供している機関は多いものの、チャレンジしたい女性に必要なとする情報が行き渡っていない

阻害要因

- ・ 複数の支援機関における連携が十分でなく、垣根を越えた連携を行うことが困難
- ・ チャレンジ支援関連情報のネットワーク化、ワンストップ化された窓口がない

今後の方向性

(1)国に期待されること

国レベルで体系的に情報システムを整備

- ・ 各府省におけるチャレンジ支援関連施策や好事例等の積極的な各種情報提供
- ・ 既存の実施されている事業等から「身近なチャレンジモデル」として積極的にロールモデルを発掘、提示

ネットワーク形成を進めようとする地域への支援

- ・ 国の地方支分部局等への協力要請
- ・ 各府省における地域への広報啓発活動

(2)地域において期待されること

- ・ チャレンジ支援のための「地域連絡協議会(仮称)」を設置し、「チャレンジ・ネットワーク」の形成を図る